

1 漢字の読み①

- ① けいしょう ② おんけい ③ ゆかい ④ けいしゃ ⑤ けいさい
⑥ ぶよう ⑦ とろ ⑧ ゆうし ⑨ ひじゅん ⑩ せんかい
⑪ ゆうが ⑫ おごそ ⑬ ひき ⑭ さ ⑮ さと ⑯ おだ
⑰ つい ⑱ なが ⑲ ひた ⑳ あざ ㉑ こころよ

解説

⑥「ぶとう」(舞踏)と読みまちがえないようにする。意味はほぼ同じ。⑬「厳かな」、⑰「費やす」、⑳「鮮やかな」は、送り仮名にも注意する。

- ② ① ぜにん ② ひんぱん ③ しょうだく ④ たんれん ⑤ きんこう
⑥ はあく ⑦ しょうさい ⑧ きんせん ⑨ ひろう ⑩ けいこく

- ⑪ さんてい ⑫ ぼんよう ⑬ く ⑭ こ ⑮ ぬぐ ⑯ とな
⑰ か ⑱ おもむ ⑲ つくろ ⑳ うるお ㉑ かがや ㉒ と
⑳ な ㉔ まぎ

解説

⑪「暫」(ザン)は「漸」(ゼン)との読みの違いに注意する。「暫」は「しばらくの間」という意味。例「暫時(ザンジ)」。⑬「漸」は「だんだん」という意味。例「漸次(ゼンジ)」。⑯「悔」の訓読みは「く(いる)・く(やむ)・くや(しい)」。

2 漢字の読み②

- ① さいばい ② くつたく ③ そつきよう ④ おつせい
⑤ とつしゅう ⑥ きせき ⑦ れんか ⑧ こうけん ⑨ よくよう
⑩ しゅんぴん ⑪ たいまん ⑫ ちんれつ ⑬ はんぶ ⑭ ひめん
⑮ もつら ⑯ あきら ⑰ もよお ⑱ みが ⑲ すぐ
⑳ うけたまわ ㉑ すみ

⑦「廉価」は「安い値段」という意味。⑨「抑揚」は「音声や音楽の調子を上げたり下げたりする」という意味。⑬「頒布」は「配って広く行きわたらせる」という意味。

解説

- ② ① あいしゅう ② しょうげき ③ せいとん ④ こうつつ
⑤ かもく ⑥ しんせい ⑦ はくらく ⑧ ゆうかん ⑨ すいこう
⑩ しょうち ⑪ ぞうてい ⑫ ぎんみ ⑬ そうかい ⑭ じんそく
⑮ せんりつ ⑯ せつれつ ⑰ しんちよく ⑱ なぐさ ⑲ ほが
⑳ そ ㉑ のが ㉒ たずさ ㉓ とどこお ㉔ うなが

解説

④「更迭」は「ある地位に就いている者を他の者に替える」という意味。⑯「拙劣」は、「へたでまずいこと」という意味。

3 漢字の読み③

- ① ① えつらん ② あいさつ ③ しんぼく ④ ようせい ⑤ けんめい
⑥ そうしよく ⑦ はいしゃく ⑧ ふんきゅう ⑨ ふんいき
⑩ とうすい ⑪ かつさい ⑫ むじゅん ⑬ ていねい ⑭ した
⑮ かせ ⑯ い ⑰ ひび ⑱ ほこ ⑲ かか ⑳ そむ
㉑ いちじる

解説

⑧「紛糾」は「もつれて乱れる」という意味。⑯「癒(やす)」の音読みは「ユ」。例「治癒(チユ)」。

- 2
- | | | | | |
|---------|--------|---------|--------|--------|
| ① えんかつ | ② げきれい | ③ ほんやく | ④ かんわ | ⑤ なつとく |
| ⑥ へんきやく | ⑦ かんき | ⑧ しゅういつ | ⑨ かんめい | ⑩ しんぎ |
| ⑪ りゅうせい | ⑫ こうせつ | ⑬ せきはい | ⑭ ざんしん | ⑮ しさ |
| ⑯ いこ | ⑰ すそ | ⑱ ただよ | ⑲ いまし | ⑳ くわだ |
| ㉑ いど | ㉒ やわ | ㉓ くわ | | |

解説

⑫「巧拙」は「物事のたくみなこととつたないこと・上手下手」という意味。⑭この「斬」は「きわだっている」という意味。「しばらくの間」という意味の「暫」(例 暫時(ザンジ))とまちがえないようにする。

4 漢字の書き①

- 1
- | | | | | | |
|------|------|------|------|------|------|
| ① 巻末 | ② 看板 | ③ 負担 | ④ 専門 | ⑤ 簡潔 | ⑥ 帰省 |
| ⑦ 困難 | ⑧ 効率 | ⑨ 輸送 | ⑩ 便益 | ⑪ 円熟 | ⑫ 登録 |
| ⑬ 暴 | ⑭ 降 | ⑮ 招 | ⑯ 耕 | ⑰ 借 | ⑱ 暮 |
| ㉑ 縮 | | | | | ㉒ 垂 |
| | | | | | ㉓ 刻 |

解説

④「専門」の「門」を「問」とまちがえないようにする。

- 2
- | | | | | | |
|------|------|------|------|------|------|
| ① 供給 | ② 郷里 | ③ 祝辞 | ④ 綿密 | ⑤ 包装 | ⑥ 貿易 |
| ⑦ 宿敵 | ⑧ 穀倉 | ⑨ 混雑 | ⑩ 責務 | ⑪ 領域 | ⑫ 資源 |
| ⑬ 統計 | ⑭ 沿岸 | ⑮ 委 | ⑯ 富 | ⑰ 射 | ⑱ 預 |
| ㉑ 告 | ㉒ 浴 | ㉓ 易 | ㉔ 吸 | ㉕ 臨 | |

解説

⑫「易しい」を「優しい」とまちがえないようにする。⑭「臨む」を「望む」とまちがえないようにする。

5 漢字の書き②

- 1
- | | | | | | |
|------|------|------|------|------|------|
| ① 功績 | ② 単純 | ③ 推移 | ④ 演劇 | ⑤ 標準 | ⑥ 植樹 |
| ⑦ 複雑 | ⑧ 衛星 | ⑨ 尊敬 | ⑩ 服装 | ⑪ 順序 | ⑫ 支障 |
| ⑬ 苦笑 | ⑭ 陰 | ⑮ 退 | ⑯ 泳 | ⑰ 延 | ⑱ 熟 |
| ㉑ 設 | ㉒ 施 | | | | ㉓ 拾 |

解説

①「績」を「積」「責」とまちがえないようにする。(例 面積・職責) ⑧「衛星」を「衛生」とまちがえないようにする。⑰「延ばす」を「伸ばす」とまちがえないようにする。

- 2
- | | | | | | |
|------|------|------|------|------|------|
| ① 配置 | ② 痛快 | ③ 警備 | ④ 豊富 | ⑤ 温厚 | ⑥ 密閉 |
| ⑦ 階段 | ⑧ 減量 | ⑨ 縦横 | ⑩ 危害 | ⑪ 財産 | ⑫ 拡張 |
| ⑬ 体裁 | ⑭ 積 | ⑮ 貸 | ⑯ 盛 | ⑰ 果 | ⑱ 群 |

解説

⑮「貸(す)」を「借(りる)」とまちがえないようにする。

- 3
- | | | | |
|------|------|------|------|
| ① 幼い | ② 養う | ③ 短い | ④ 営む |
|------|------|------|------|

6 漢字の書き③

- 1
- | | | | | | |
|------|------|------|------|------|------|
| ① 演奏 | ② 燃焼 | ③ 推進 | ④ 制約 | ⑤ 砂糖 | ⑥ 航海 |
| ⑦ 提唱 | ⑧ 臨席 | ⑨ 精製 | ⑩ 復興 | ⑪ 源 | ⑫ 似 |
| ⑬ 直 | ⑭ 散 | ⑮ 破 | ⑯ 操 | ⑰ 激 | ⑱ 届 |
| ㉑ 飼 | ㉒ 蒸 | ㉓ 練 | | | |

解説

⑨「精製」は「半製品に手を加えて良質なものにする」と(例)砂糖を精製する。「生成」(ものを新たに作りだすこと。例)薬品を生成する)とまちがえないようにする。⑩「破(る)」を「敗(れる)」とまちがえないようにする。

2

- ① 模型 ② 批評 ③ 往復 ④ 運賃 ⑤ 難色 ⑥ 血管
⑦ 徒労 ⑧ 寒暖 ⑨ 売買 ⑩ 至急 ⑪ 額 ⑫ 善後策
⑬ 判断 ⑭ 幹 ⑮ 干 ⑯ 省 ⑰ 絶 ⑱ 栄

解説

⑤「難色」は「賛成できないというような態度」という意味。⑦「徒労」は「無駄な労苦」という意味。⑫「善後策」は「うまく後始末をするための方策」という意味。「前後策」と書きまちがえないようにする。

3

- ① 導く ② 勢い ③ 逆らっ ④ 確かめる

7 漢字・熟語の知識

1

- ① いとへん ② こざとへん ③ しめすへん ④ ころもへん
⑤ りっしんべん ⑥ れんが「れっか」 ⑦ りつとつ ⑧ まだれ
⑨ そつによつ ⑩ うかんむり

2

- ① 十二 ② 十二 ③ 十六 ④ 十

解説

楷書で表すと、①補、②雲、③燃、④流となる。

3

- ① A ② B ③ B ④ A

解説

音読みをカタカナ、訓読みをひらがなで表すと、①「ヤクわり」②「ねダン」③「ばシヨ」④「バンぐみ」となる。

4

- ① オ ② カ ③ イ ④ ア ⑤ ウ ⑥ エ

5

- ① ウ ② ア ③ イ ④ エ ⑤ ウ

解説

①「往復」とウ「明暗」は、上下の漢字の意味が対になる。ア「速報」は、上の漢字が下の漢字の修飾語になる。イ「保温」は、下の漢字が上の漢字の目的・対象になる。エ「過去」は、上下の漢字の意味が似ている。②「相互」とア「衣服」は、上下の漢字の意味が似ている。イ「朗報」は、上の漢字が下の漢字の修飾語になる。ウ「未知」は、上の漢字が下の漢字を打ち消す。エ「攻防」は、上下の漢字の意味が対になる。③「着席」とイ「読書」は、下の漢字が上の漢字の目的・対象になる。ア「花束」は、上の漢字が下の漢字の修飾語になる。ウ「尊敬」は、上下の漢字の意味が似ている。エ「不要」は、上の漢字が下の漢字を打ち消す。④「勇氣」とエ「語源」は、上の漢字が下の漢字の修飾語になる。ア「握手」は、下の漢字が上の漢字の目的・対象になる。イ「救助」は、上下の漢字の意味が似ている。ウ「軽重」は、上下の漢字の意味が対になる。⑤「頭痛」とウ「国立」は、上下の漢字が主語と述語になる。ア「利害」は、上下の漢字の意味が対になる。イ「決意」は、下の漢字が上の漢字の目的・対象になる。エ「信念」は、上下の漢字の意味が似ている。

8 同訓異字・同音異字

1

- ① エ ② ウ ③ イ

解説

①とエは「収める」。アは「治める」、イは「修める」、ウは「納める」。②とウは「暑い」。アは「厚い」、イとエは「熱い」。③とイは「移す」。アは「映す」、ウとエは「写す」。

- 2 ① 望 ② 供 ③ 誤 ④ 変 ⑤ 著

解説

①「望む」(希望する)、「臨む」(面する・出席する)を使い分ける。②「供える」(神仏などに物をさし上げる)、「備える」(準備する)を使い分ける。③「誤る」「謝る」を使い分ける。④「変える」「代える」「替える」を使い分ける。⑤「著す」(書物を世に出す)、「表す」「現す」を使い分ける。

- 3 ① ア ② ウ ③ エ ④ イ

解説

①「冒険」,「ア」危険、「イ」儉約、「ウ」検査、「エ」真剣。②「粗末」,「ア」祖先、「イ」租税、「ウ」粗野、「エ」組織。③「侵略」,「ア」浸水、「イ」進出、「ウ」診察、「エ」侵害。④「予感」,「ア」発刊、「イ」感染、「ウ」圧巻、「エ」旅館。

9 同音異義語

- 1 ① ア ② イ ③ ア ④ イ ⑤ ウ ⑥ ウ ⑦ イ ⑧ イ
⑨ ウ ⑩ ア

解説

①「対象」は「働きかける相手」,「イ」対照は「照らし合わせること」,「ウ」対称は「互に対応してつりあうこと」。②「仮定」は「仮にこうだと決めること」,「イ」過程は「物事の経過の途中の段階」,「ウ」課程は「学校などにおける学習の範囲や順序」。③「保証」は「まちがいはなく大丈夫だとうけあうこと」,「イ」保障は「責任をもって一定の地位や状態を保護すること」,「ウ」補償は「損失などを埋め合わせること」。④「ア」器械は「動力をもたない小さな装置」,「イ」機会「は」物事をするのに都合のよい時機」,「ウ」機械「は」動力によって動く装置」。⑤「ア」開放は「だれでも自由に利用することを許すこと」,「イ」快方「は」病気や傷がよくなってくること」,「ウ」解放は「体や心の束縛を取り除いて自由にする」。⑥「ア」公園は「多くの人が利用できるよう設けられた広場」,「イ」公演「は」演劇・音楽などを公開の場で演じること」,「ウ」講演「は」多くの人に、あるテーマについて話をする」。⑦「ア」感心「は」すぐれた言動などに心を動かされること」,「イ」関心「は」ある事柄に心をひかれて興味をもつこと」,「ウ」歆心「は」うれしいと思う

気持ち」。⑧「ア」観賞「は」景色や動植物などを見て楽しむこと」,「イ」鑑賞「は」芸術作品などを見て味わうこと」,「ウ」干渉「は」間に立ち入って影響を及ぼすこと」。⑨「ア」不振「は」成績などがふるわないこと」,「イ」不審「は」疑わしく思うこと」,「ウ」不信「は」信用できないこと」。⑩「ア」不朽「は」いつまでも価値を失わないこと」,「イ」普及「は」広くいわたること」,「ウ」不急「は」急いでいないこと」。

- 2 ① a 意義 b 異議 c 異義 ② a 意思 b 意志

- ③ a 解答 b 回答 ④ a 指示 b 支持
⑤ a 使命 b 指名 ⑥ a 追求 b 追究 c 追及
⑦ a 移動 b 異動 c 異同 ⑧ a 平行 b 並行 c 平衡
⑨ a 信仰 b 親交 c 振興

解説

①「a」意義「は」物事がもつ価値や重要性」,「b」異議「は」反対意見や不服の意思を示すこと」,「c」異義「は」異なる意味」。②「a」意思「は」何かをしようという思い」,「b」意志「は」物事をなしとげようとする志」。③「a」解答「は」問題などを解いて答えること」,「b」回答「は」質問や問い合わせに答えること」。④「a」指示「は」命令すること」,「b」支持「は」主張などに賛成して後押しすること」。⑤「a」使命「は」与えられた重大な任務」,「b」指名「は」名をあげて人を指定する」。⑥「a」追求「は」手に入れようとねばり強く追い求めること」,「b」追究「は」学問や真理を深く考えきわめること」,「c」追及「は」責任・欠点などを追いつめること」。⑦「a」移動「は」場所をかえること」,「イ」異動「は」地位や職務が変わること」,「ウ」異同「は」異なっているところ」。⑧「a」平行「は」二本の直線などが交わらないこと」,「b」並行「は」二つの物事を同時に行うこと」,「c」平衡「は」物事のバランスがとれていること」。⑨「a」信仰「は」神仏を信じ尊ぶこと」,「b」親交「は」親しくつきあうこと」,「c」振興「は」物事が盛んになるようにすること」。

10 熟語の意味

- 1 ① エ ② ア ③ イ ④ ウ

- 2 ① エ ② イ ③ ウ

解説

①「蔓延」は好ましくないことについて用いられる。②「恣意」は「気ままな思いつき。自分勝手な考え」という意味。③「杓子定規」は融通のきかないさまを表す。「杓子」は、汁をすくったりするのに使う、柄が曲がった道具。

- 3 ① ア ② エ ③ ウ ④ イ

- 4 ① 特殊 ② 損失 ③ 間接 ④ 消極 ⑤ 否定 ⑥ 結果

11 三字熟語・四字熟語

- 1 ① イ ② エ

解説

①「近代／史」とイ「普遍／性」は二字熟語＋一字。ア「新／学期」とエ「不／安定」は一字＋二字熟語。ウ「衣／食／住」は三字が対等な関係にある。②「未／解決」とエ「初／対面」は一字＋二字熟語。ア「真善美」は三字が対等な関係にある。イ「合理的」とウ「乗車／券」は二字熟語＋一字。

- 2 ① エ ② ア ③ イ ④ オ ⑤ ウ

- 3 ① 以 ② 断 ③ 単 ④ 意 ⑤ 霧 ⑥ 口 ⑦ 千

解説

①は「意」、③は「短」、⑤は「夢」、⑥は「句」とまちがえないようにする。

- 4 ① イ ② ウ

解説

①ア「絶体絶命」は「追いつめられて、危険や困難から逃れられないこと」。イ「起死回生」は「だめになりそうな物事を立て直すこと」。ウ「適材適所」は「その人のもつ能力・特性にふさわしい地位・仕事につけること」。エ「一念発起」は「あることをなしようと決心すること」。②ア「我田引水」は「自分に都合のよいように説明したり、物事を運んだりすること」。イ「是々非々」は「よいことは賛成し、悪いことは反対すること」。ウ「理路整然」は「きちんと筋道が整っているさま」。エ「唯々諾々」は「何でも他人の言いなりになるさま」。

12 慣用句

- 1 ① エ ② ウ ③ オ ④ ア ⑤ イ

- 2 ① 手 ② 目 ③ 口 ④ 耳 ⑤ 肩 ⑥ 鼻 ⑦ 胸 ⑧ 舌
⑨ 腹 ⑩ 足

- 3 ① ウ ② エ ③ ア ④ イ

解説

①「琴線」は「琴に張ってある糸」。外界の物事に触れてさまざま思いが引き起こされることを、琴の糸にたとえた言葉。④「白日」は「明るく輝く太陽」。

- 4 ① ア ② イ ③ ア ④ イ

解説

②「屈託」は「気にかかることがあって心が晴れないこと」。③イの意味を表す言葉は「力不足」。

13 ことわざ・故事成語

1 ① ウ ② エ

解説

① ア「立て板に水」は「すらすらとよく話すさま」。イ「木を見て森を見ず」は「細かな部分にこだわりすぎて、本質や全体をとらえられないこと」。エ「口は災いのもと」は「うっかり言った言葉が思いがけない災いを招くこと」。

② ア「善は急げ」は「よいことは機会を逃さず急いでせよ」。イ「ちりも積もれば山となる」は「ほんの小さなものでも積もれば大きなものとなること」。ウ「棚からぼたもち」は「苦勞せずに思いがけない幸運に巡り合うこと」。

2 ① ア ② ア ③ イ ④ ア

3 ① エ ② オ ③ ア ④ ウ ⑤ イ

4 ① ウ ② イ

解説

① ア「呉越同舟」は「仲の悪い者同士が同じ場所にいること」。イ「塞翁が馬」は「人間の災いと幸福は予測ができないことのたとえ」。ウ「背水の陣」は「一歩もあとにひけない追いつめられた状況」。エ「四面楚歌」は「周りを敵に囲まれること」。② ア「漁夫の利」は「二者が争っている間に第三者が利益を手に入れること」。イ「蛇足」は「余計な付け足し」。ウ「推敲」は「詩や文章を書くときに、最適な表現を求めて練り上げること」。エ「青天の霹靂」は「突然の重大事件」。

14 語句の意味・文学史

1 ① ウ ② ア ③ イ ④ エ

解説

③ 「おもむろに」は「急に」という意味ではないので注意する。

2 ① イ ② ア ③ ウ

解説

① 「まんざら」は、「まんざらいやでもなさそうだ」のように、否定の意味をやわらげたり、むしろ逆だという意味を表したりする。② 「所在」は「物や人が存在する場所」のこと。

3 イ

解説

ア「枕草子」は平安時代の随筆。イ「沙石集」は鎌倉時代の説話集。ウ「古今和歌集」は平安時代の和歌集。エ「おくのほそ道」は江戸時代の俳諧紀行文。

4 ア

解説

『竹取物語』とア「源氏物語」は平安時代の物語。イ「方丈記」は鎌倉時代の随筆。ウ「土佐日記」は平安時代の日記。エ「今昔物語集」は平安時代の説話集。

5 ウ

解説

ア「舞姫」の作者は森鷗外。イ「夜明け前」の作者は島崎藤村。エ「雪国」の作者は川端康成。

15 文法（文の組み立て・品詞・用言）

1 ウ

解説

「コーヒークップ」は「単語で」「コーヒークップが」で「文節になる。」「置いてある」は「置いて」「＋」「ある」で「文節になる。」「ある」は補助動詞。

2 エ

解説

「陸上」の「国際大会」で「世界記録」を「更新する。」で七単語。ア「夏休み」に「富士山」の「山小屋」に「泊まる。」で七単語。イ「特急列車」が「沿線」の「駅」を「通過する。」で七単語。ウ「近所」の「スーパーマーケット」で「買った」で「くる。」で七単語。エ「励まし」の「一言葉」を「しっかりと」受け止める。」で六単語。

3 イ

解説

「変更は」と「ない」、イ「落とし物も」と「多い」は主・述の関係。イの「連体中」は主語ではなく、修飾語。ア「通って」と「いる」は補助の関係。ウ「ミステリーの」と「小説を」は修飾・被修飾の関係。エ「ハムサンド」と「サラダを」は並立の関係。

4 イ

解説

「大きな」とイ「あらゆる」は連体詞。ア「もっと」は副詞。ウ「小さい」は形容詞。エ「華やかな」は形容動詞。

5

- ① 命令形 ② 連用形 ③ 未然形 ④ 仮定形 ⑤ 終止形
⑥ 連体形

解説

それぞれの動詞の基本形は、①「頑張る」、②「書く」、③「選ぶ」、④「起きる」、⑤「来る」、⑥「食べる」。

6 ア

解説

「起き」（起きる）とア「似」（似る）は上二段活用。イ「わから」（わかる）は五段活用。ウ「訪れ」（訪れる）は下一段活用。エ「き」（くる）は力行変格活用。

16 文法（助動詞・助詞・意味用法の識別）

1 ① ウ ② イ

解説

① 助動詞「られる」の識別。「ほえられた」とウ「認められる」は受け身。ア「案じられる」は自発。イ「乗せられる」は可能。エ「終えられた」は尊敬。② 助動詞「た」の識別。「覆われた」とイ「面した」は存続。ア「移住した」とウ「見た」は過去。エ「食べ終わった」は完了。

2 ① ウ ② エ

解説

① 「の」の識別。「アメリカ人の書いた」とウ「住み心地のよい」は部分の主語を表す格助詞。ア「行かないの」は疑問を表す終助詞。イ「週末の予定」は連体修飾を表す格助詞。エ「努力を続けるのは」は体言の代用を表す格助詞。② 副助詞「ばかり」の識別。「勉強ばかり」とエ「泣いてばかり」は限定。ア「一週間ばかり」は程度。イ「帰ってきたばかり」は動作の完了直後。ウ「割れんばかり」は「今にもくしそう」という意味。

3 ① エ ② ア ③ ウ

解説

①「食べない」とエ「いけない」は打ち消しの助動詞「ない」。ア「面白くない」は補助形容詞。イ「もつたいない」は形容詞の一部。ウ「書類がない」は形容詞。②「コンサート会場に」とア「寝室に」は場所を表す格助詞「に」。イ「うれしそうに」は助動詞「そうだ」の連用形の一部。ウ「きれいに」は形容動詞「きれいだ」の連用形の活用語尾。エ「すでに」は副詞の一部。③「万年筆で」とウ「電気で」は手段を表す格助詞「で」。ア「読んで」は接続助詞「て(で)」。イ「作曲家で」は断定の助動詞「だ」の連用形。エ「正確で」は形容動詞「正確だ」の連用形の活用語尾。